

KIDS SMILE LABO JOURNAL *October*

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Kids smile labo Journal
Vol.47



夢中で遊ぶ、その瞬間に

子どもたちが夢中になる瞬間というのは、園での生活の中にたびたび訪れる。

この日、その姿に出会ったのは「アートの日」だった。土粘土という素材に触れながら見せる子どもたちの表情は、それはもう魅力にあふれていた。楽しさから生まれた笑顔であったり、真剣に素材と向き合う力強い眼差しであったり。目の前でカメラを構える私の存在など気にも留めず、子どもたちはただひたすら土粘土との時間を楽しんでいた。その姿はまさに、「夢中」という言葉を体現しているようだった。一見すると、ただ遊んでいるようにも見えるこの時間。けれどその中には、たくさんの「夢中」があふれ、そこから育まれる力が確かに息づいている。

そんな日常を、共に過ごす大人が見守り、一緒に喜びや面白さを分かち合いながら丁寧に積み重ねていく。

その積み重ねが大切にされている場所こそが、KIDS SMILE LABO なのだ。

子どもたちから〈もりもり〉の愛称で親しまれている、KIDS SMILE LABO の園長。5 歳と 2 歳、二児の父でもあり、保育と子育てに日々真摯に向き合っている。
趣味は写真撮影で、愛用のカメラは Nikon Zf。
もりもりの生み出す、優しくて愛で溢れる世界は note にて随時更新！
子育てや保育への想いも語っています。

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 誉



▶ 10.1 ▶

子どもの味覚は育てるもの
Text by Miki Yamada

子どもの食への悩みは尽きません。もうすぐ1歳8ヶ月になる息子も、離乳食開始から日々波があり、昨日まで食べていた物を急に嫌がったり、野菜を拒否したりと、次々に「どうして？」が湧いてきます。そんな中、ラボで出会った本の中に子どもの「味覚」について書かれており、考え方が少し変わりました。大人は苦味のあるピーマンやコーヒーなども美味しく感じますが、子どもにとってそれらは美味しくないもの。つまり、味覚の成長には「いろいろな味を知る経験」が必要で、それを手助けするのが大人の役目なのです。子どもが好きな物ばかりでなく、苦手な物も繰り返し与えることが大切です。ラボの給食でも、苦手と言われる食材を何度も出すようにしており、今年は「きゅうり」に挑戦しました。繰り返し出すことで、ほとんどの子どもが抵抗なく食べられるようになりました。これは「味の学習」にすり込みの効果です。家庭では、何度も食べてくれないと大人の方が落ち込むこともあります。無理せず週に1回でも繰り返し出してみてください。ある日突然、子どもが手を伸ばして食べる日が来るかもしれません。それから、悩んだ時には是非ラボの大人に相談してみてください。私も真剣に悩んでいたことをあつという間に解決できたことがたくさんありましたし、きっと力になってくれると思います。



KIDS
SMILE LABO
KITCHEN



instagram にて
日々の献立や
調理実習の様子を
投稿しています！



@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO



@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO



kidssmilelabo.com

Minamo Ozora Daichi

Over the past month, each class has been bustling with activity. Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection. We invite you to enjoy reading about their journey. This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

初めての 座間谷戸山公園

text by Reiji Akamatsu

毎年、大山登山の前に行く七沢遠足。今回は雨の影響で七沢での活動は叶いませんでした。代わりに訪れた谷戸山公園で、子どもたちの「歩く力」に気づかされました。

園内の外周は約3キロ。アップダウンのある道のりを散策も楽しみながら歩ききった子どもたちの姿に、4月からの半年間での成長を強く感じました。また、谷戸山公園の豊かな自然は、季節ごとに異なる表情を見せてくれそうで、また訪れたいと思わせる魅力がありました。今回は、子どもたちがどのように歩き、どんな発見をしたのかをお伝えします。

森の学校

少し開けた場所にある「森の学校」。保育者が先生の真似をすると大喜びの子どもたち。体育の授業と称しリレーをしたり、看板に書かれた花の名前を読み上げたり。次の日に思い出を聞くと、「学校ごっこが面白かった!」と答える子も



方角の看板

「見つけた!」「見逃してますよ〜!」と、子どもたちが夢中になっていたのは方角の看板。看板には方角と数字が書かれており、歩くたびに数が増えたり減ったりするのを、楽しみながら園内を歩きました。



伝説の丘

園内の中ほどに来たころ、「お腹すいた〜」「おにぎり食べたい!」の声。看板にあった「伝説の丘」を目指して、「ここまで行って食べよう!」と声をかけると、子どもたちはかくれんぼをしたり坂を駆け下りたりしながら向かいました。

丘からは大山が見えると書かれていましたが、この日は曇り空。それでも「やっほー!」と山びこの練習を楽しむ姿が見られました。

屋根のある場所で念願のおにぎりタイム。夢中で食べ終わると、「ナナフシがいるかも!」と紅葉の木を観察したり、竹をゆすって雨水を落としを試みたり。エネルギーをチャージして、思い思いに体を動かしていました。



電車

初めてみんなで乗った電車。大空大地さんは改札機に切符を入れる体験もしました。

「景色が見えるね」「工事現場だ!」と、移り変わる外の様子を見ながら口々に話したり、すれ違う電車のスピードに驚いたり、子どもたちなりに“電車に乗る”体験を楽しんでいました。



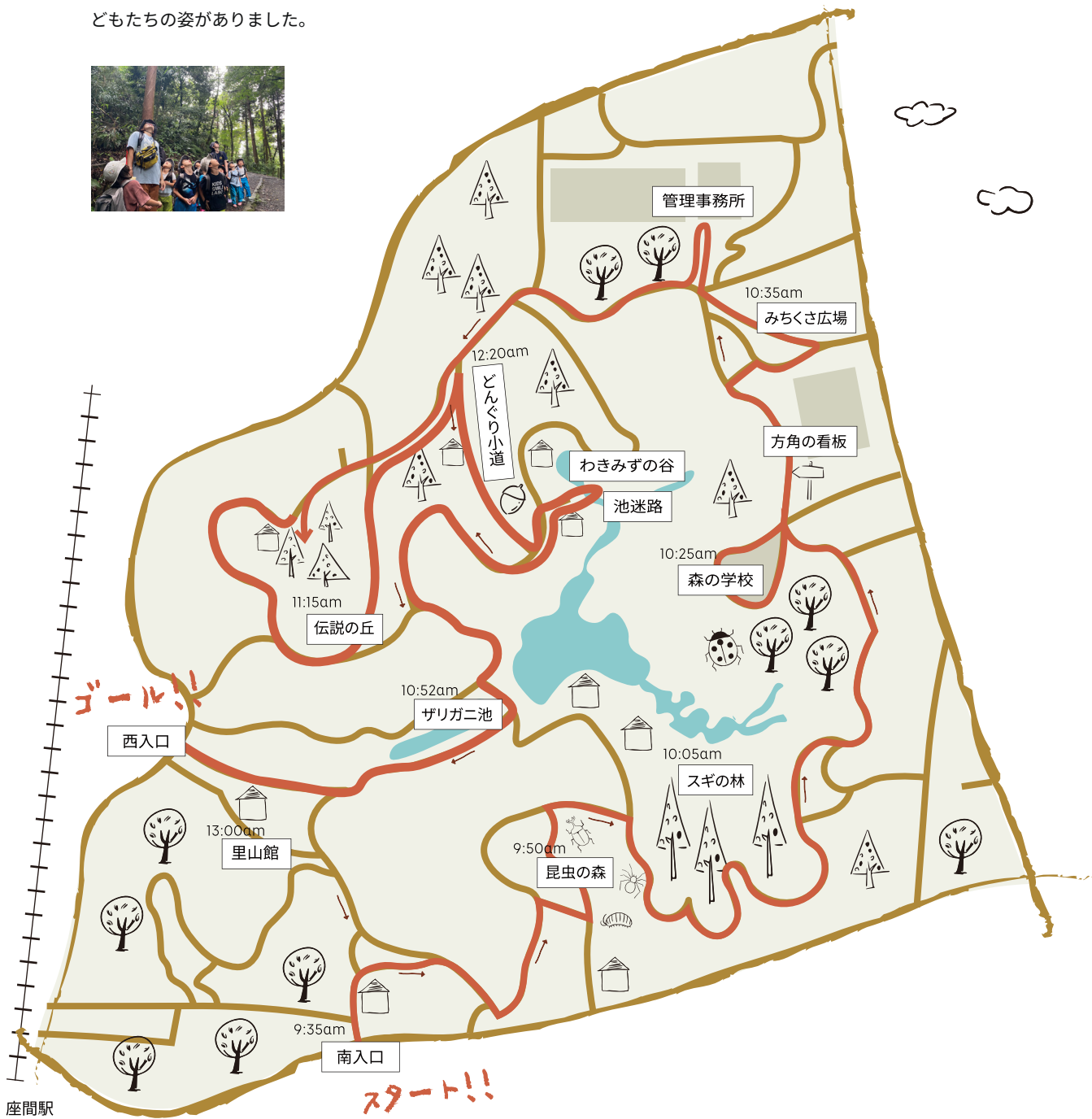
スギの林

入口で感じた雨も止み、見上げると高くそびえるスギの林。看板には「30メートルを超える高木」と書かれており、「30メートル!?!」と目を丸くして上を見上げる子どもたちの姿がありました。



昆虫の森

最初に訪れたのは「昆虫の森」。蜘蛛やカタツムリを見つけ、看板に書いてあった【石の下をめくると生き物に出会えるよ】の言葉に導かれ、早速石をめくってみる子どもたち。「いっぱいいるよー!」と顔をのぞかせたのは、ヤスデやダンゴムシ、コオロギたち。普段、虫にあまり興味を示さない子も自然と観察に夢中になる姿があり、自然が与えてくれた環境が、子どもの探求心を引き出す力を感じました。じめじめした森の中にはキノコもたくさん。「キノコの森だ!」と楽しそうに発見を重ねていました。



木の実とゴリガいにシセ

お昼を食べた後は「どんぐり小道」へ。色とりどりのどんぐりや栗を拾い、「らっきーどんぐりみつけ!」と嬉しそうに見せてくれました。さらに進むと大きな池を発見。木道がかけられた池を「迷路みたい!」と探検。近くの「ザリガニ池」では、「こんどは釣ってみたいなあ」と話す姿も。今回だけで終わりなのではなく、またこの場所へ散策に来たいと思えるフィールドでした。



Nobana

斜面に挑戦！「やってみたい」の気持ちが育つとき

ようやく気温が落ち着き、戸外でたっぷりと遊べるようになった10月。

普段はのばさんだけで散歩に出かけていますが、ある日、偶然にも幼児クラスと同じ桜広場へ行くことができました。広場では、幼児クラスの子どもたちが斜面をよじ登る遊びを楽しんでおり、その姿を見たのばさんの「挑戦したい！」「やってみたい！」という気持ちに火が付きました。

かなり急な斜面だったため、登っては滑り落ち…と何度も挑戦する姿が見られました。「できない」と助けを求める声に気づいた歳上の子が手を差し伸べてくれる場面もありました。

何度も繰り返し挑戦する中で、ようやくうまくなり、誰かに助けてもらうことのあたたかさ。

いつもの戸外遊びのひとつの中に、たくさん学びと喜びが詰まっていた。

今回の経験は、のばさんにとって「挑戦することの楽しさ」や「人と助け合うあたたかさ」を感じる大切な時間となりました。これからも、そんな気持ちを大切にしながら一歩ずつできることを増やしていってほしいです。

みんなと過ごした日々は、私にとってかけがえない時間でした。これからしばらくお休みに入りますが、また元気に戻ってきたときに、みんなの成長した姿に会えるのを楽しみにしています。本当にありがとうございました。

Text by Miki Saito



Soyokaze

手を繋いで小さな冒険へ

涼しくなって戸外遊びに行けるようになり、そよかぜクラスでは、手を繋いで歩く「手繋ぎ散歩」に少しずつ挑戦しています。

最初は友だちと手を繋ぐことに戸惑ったり、歩くことに不安を感じていた子も、今では「のばさんみたい！」「今日、バギーなしたったよ！」「嬉しそうに話す姿も見られ、自信へとつながってきているなど感じます。

時には「歩きたくない！」「と疲れてしまった！」「〇ちゃんと繋ぎたかった。」「今は繋ぎたくない。」「と、気持ちがぶつかって涙することもあります。それでも、少し時間が経つと「やっぱり手を繋いで歩きたい！」「と気持ちを切り替えられるようになってきました。

「ぐるぐるまわれ」やピクニックっこなど、遊びの中で自然と手を繋ぐ機会が増え、少しずつ友だちと一緒に嬉しい。という気持ちが芽生えてきているのだと思います。

散歩中は、「あ、工事してる！」「むぎちゃん（犬）いるかな？」と、目を輝かせながら周りの景色を楽しんだり、美容室のジョーさんに「今日も歩いてきたよ！」「嬉しそうに報告する姿も見られます。子どもたちの「歩きたい」「やってみたい」の気持ちを大切にしながら、これからも毎日の散歩を楽しんでいきたいと思っています。

Text by Rika Fujie



Komorebi

バギーに乗って秋のお散歩へ！

過ごしやすい気温になり、戸外へ出かける心地よい風を感じる季節になりました。

こもれびさんのお散歩にも、季節の変化とともに新しい姿が見られています。春頃から愛用していた4人乗り・2人乗りのベビーカーを卒業し、今は黄色い立ち乗りバギーで出かけています。

初めのうちは、ちょっとした段差でバランスを崩してしまう姿も見られましたが、子どもたちの素晴らしい適応力と成長で、今ではすっかり乗りこなせるようになりました。

バギーの中では、それぞれが掴まりたい場所を探したり、友だちとの距離をとろうと「あっちに行つてよ！」「といった表情や声で気持ちを伝えたりと、一人ひとりの思いが溢れています。

道ゆく人が「可愛いねー！行つてらっしゃい！」と声をかけて下さることも

多々あり、「はいはいだよ」と保育者が手を振る仕草を見ると、少し遅れて子どもたちも手を振っています。

座って移動していた頃とは違い、立つてバランスをとることは小さな子どもたちにとって体力を使うものです。

それでも戸外では、広場の端から端まで歩いたり、階段や斜面を登ったりと、思い切り身体を動かして楽しむ姿が見られます。

お散歩の帰り道では、バギーに掴まりながら眠ってしまったり、身体をべたんと折り曲げて眠る可愛らしい姿も思い切り遊んで、沢山食べて、ぐっすり眠る。そんな日々を重ねながら、少しずつ体力を付け、気候の良いこの季節をのんびり楽しみたいと思っています。

Text by Miki Miyasaka

